

ど、舟運と無関係ではないのです。こうした点から女体社は古利根川・利根川を遡るように南関東から北関東の上野国へ入ってくるようなのです。逆に重殿社の場合には南へ下りて行くわけです。この展開の仕方が反対の動きをするということも、非常に面白いと思います。

そろそろ予定の時間が過ぎているようです。私の話は、このあたりで終わりにしたいと思います。今日はいろいろ勉強させていただきました。どうも皆さんご苦勞様でした。

能登 森田先生大変ありがとうございました。

今日私たちがここでお話しした内容は、これから皆さんとともに考えていこうという話です。皆さん方も参加していただいて、東毛地域の歴史をもう一度見直していくきっかけになればということでこの会を催したわけです。私たちは東毛地域だけでも十数遺跡で発掘調査しております。何かご質問、あるいはご意見がございましたら発掘現場に来ていただいて色々と話をしていただければ私たちも幸いです。長時間にわたってのご静聴、ご協力ありがとうございました。

平成14年度出土文化財巡回展示会スタッフ

実行委員：能登健、真下高幸、佐藤明人、相京建史、笠原秀樹、柳岡良宏、金子伸也、新井仁、春山秀幸、齋藤利子、長沼孝則、小林正

講演録編集：長沼孝則

例言

1. 本書は、平成14年度出土文化財巡回展示会の付帯事業である講演会「水のめぐみ～大間々扇状地の歴史を語る～」の講演録です。
2. 本書に掲載した図版は講演会で使用した図版を下に、一部加筆修正したものも含まれています。

表紙イラスト：飯塚 聡氏